

## 令和元年度（2019年度）第1回「柏崎市男女共同参画審議会」議事録(概要)

日 時 令和元年（2019年）5月10日（金）15:00～17:00  
会 場 柏崎市役所 4階 小会議室  
出席委員 阿部委員、新野委員、板羽委員、上野委員、遠藤委員、岡田委員、海津委員、  
木下委員、高橋委員、長澤委員、西巻委員 11人  
(欠席：杉山委員)  
事 務 局 人権啓発・男女共同参画室  
室長 木村、主幹 宮崎、係長 大橋、主任 長橋

### 概 要

次期計画の策定に向けて実施する市民意識調査・事業所調査・中生意識調査の内容について、協議検討を行った。

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 副市長あいさつ
- 4 委員紹介（事務局紹介）
- 5 会長・副会長選任

事務局 男女共同参画推進条例第27条により、「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」とあるので、委員の皆様から意見をいただきたい。

A委員 事務局の案があれば提案していただきたい。

事務局 事務局案を提案させていただき、承認をいただくことでよろしいか。

(全委員了承)

会長を新野良子さん、副会長を上野るみさんをお願いしたい。

(全委員了承)

### 6 議 事

- (1) 柏崎市男女共同参画審議会の任務、役割について

(事務局から資料1について説明)

議長 質問がなければ市民意識調査の説明をお願いしたい。

- (2) 市民意識調査・事業所調査・中生意識調査について

(事務局から計画の体系、計画の指標を説明、資料2について説明)

議長 市民意識調査の問1から問11まで質問をいただきたい。

A委員 この意識調査の質問票は、初めてこの審議会に報告されたのか。

議長 26年度が前の委員が作ったものだ。少しずつ時代が変わっているので、現状に合わせた修正案を今回の委員から求めていく。一般市民向けなので分かりやすい方がいい。継続して行っているのだから、比較をするために変えられない部分もある。

る。

B委員  
事務局  
議長

句点の位置が前回と違うが、どうしてか。

公用文では括弧の後ろに句点を付ける。

役所の用語があるそうだ。それに沿って修正しているが、対象が市民なので、どちらを使うかをここで議論する内容にもなる。アンケートから報告書にするときに、市の内部文書は公用語で、外部への文書は公用語を使わなくてもいいと思うが、皆さんはどう考えるか。一般の方にとっては26年度の文章が普通だ。

人権啓発・男女共同参画室長 分かりやすい方に直すのであればいい。

議長

31年度版にするか26年度版のように一般市民の感覚で修正をするか、どちらかにしたい。

(挙手により決定)

では今回は31年度版にする。他に何かあるか。

A委員

問5-1で「1歳未満」、「1歳以上3歳未満」としているのを「未就学児」と一つに変更したということだが、例えば1歳未満であれば、保育園に入っている入っていないという部分がある。そこを一括りにしたときに、結果が「職業を持っている、持っていない」、「子どもを保育園に預ける、預けない」につながることに関わるので、細かくした方がいい。

議長

26年度版と31年度版の折衷案で、「預けている、預けていない」と2分割ぐらいに変えられるかもしれない。

C委員

これは何を求めているかによると思う。3分割でもいいが、一つにした方が分析しやすいのであれば、まとめてもいいと思う。

A委員

例えば、問15で「3保育サービスを充実させる」という項目がある。柏崎は待機児童がないというので問題ないかもしれないが、例えば6か月以上は保育園に預けられるが、保育サービスが充実していないから働けないなど、そういう分析をするのであれば細かくした方がいい。必要ないのなら一括りでいいと思う。

B委員

基本計画の61ページに「1歳未満」、「1歳以上3歳未満」とデータがあるが、これがどのように分析にいかされているのか分からない。

人権啓発・男女共同参画室長 そこまで細かく分析していない。

議長

在宅の未満児、預けている未満児ぐらいに分けておくか、3分割が有効か。

A委員

有効でないから一緒にしたと思う。

議長

数字が小さいので、そのようにした方が合理的だと考えたと思う。ここは事務局と相談しながら、分析をどこまでするかということと合わせて検討したらどうか。

人権啓発・男女共同参画室長 ここから展開する分析について、もう一度検討して次回の審議会で示したい。

議長

他になければ問12から16に行きたい。

A委員

新しく審議会に参加させていただいて、なかなか分かりづらいのものもある。もし自分にこのアンケートが来たらどうだろうということでもいいのか。



した理由は何か。

事務局 細かい活動内容を聞いていかせる項目があるのかということで、活動内容まで聞く必要がないと感じたので削除した。

議長 26年度版の問11-1の項目が詳しくて、大枠のアンケートではそこまで追求する必要はないという判断だったと思う。「ボランティア活動、地域活動をどう思いますか」というように違う設問にして、「関心がある、ない」のようにすればいい。「参加していますか」だと、しているか、していないか、答えがそれだけになってしまう。

B委員 26年度版の問11-1は、「嫌だけれども、やらなければならないからやっています」というのと、「自分の意思からやっている」のに別れる。例えば2、3番の町内会やPTAとなったら嫌でもやらなければならない。それと対照的で、5番の国際交流、8番のまちづくりは自らの意思でやっていると思えると思う。そういうところを見たいのであれば残した方がいい。その部分である程度「やりたくないけどやっています」というような意識は見える。

D委員 苦情等があつての削除ということではないのか。

事務局 そうではない。

B委員 参加していない人へ、こういう活動もあるんだという意識付けにもなるかもしれない。

D委員 問11だけだと、町内会の集まりに参加したのが果たして○なのか×なのか迷う。

B委員 特に問題がなければ残してもいいと思う。

人権啓発・男女共同参画室長 残すことは差し支えない。どの程度分析に使えるか正直分からないが、やらないで終わるとそれっきりになってしまう。

議長 残すことで問17-1がいきってくるかもしれない。残すことでよろしいか。  
(全員了承)

では最後まで、何か質問はあるか。

E委員 男女共同参画という言葉の意味が、分からなくて調べたので、用語の説明があるといい。

議長 最初に簡単な説明文があるのか。

人権啓発・男女共同参画室長 アンケートの中に用語集はおそらくないと思う。

議長 用語集ではなくどこかに解説があればいい。最初はないと分かりにくい。「男女共同参画とは」という3行くらいの文章で、アンケートの目的みたいなものを一緒に入れていただきたい。

事務局 前回はアンケートの一番最後に用語解説が参考資料である。ジェンダー、ドメスティックバイオレンス、ポジティブアクション、ワーク・ライフ・バランスなどA4一枚ものである。例えばそこに「男女共同参画とは」と入れる方法もある。

議長 そこではなく、全然知らない市民がこれを受け取ったときに見るので、入口で

はないかと思う。

F 委員            これだけのアンケートをもらったなら、私だったら多分やらない。男女共同参画という言葉が分からない。この参考資料があると意味合いが伝わると思う。そもそもアンケートを何のためにするのか。なぜこのようなことをやらなくてはならないのが大事だと思う。

議長                資料1のダイジェスト版のようなものがあって、アンケートの目的が入っていればいい。

事務局             このアンケートの最初に「ご協力のお願ひ」があるが、そこには男女共同参画の文言の意味までは書いていない。「男女が互いに人権を尊重しつつ…」という前段がある。次回それをお示しして、どのような形がいいのか検討していただきたい。

議長                何のためのアンケートなのかを簡単に書いてあると、答えようという気持ちになるかもしれないのでお願いしたい。

B 委員             問20-1だが、「7ヌード写真を見たり貼ったりする」というのは、例えば職場で、男性が女性の前で写真を見たりデスクに貼ったりということか。

事務局             この文章からはそういうことになる。

B 委員             そういった状況がそんなにあるのか。インターネットでリベンジポルノのように裸の写真を公開されたりという設問の方が時代に合っていると思う。インターネットを使ったハラスメントというのが多い。時代に沿った形にした方がいい。

人権啓発・男女共同参画室長    この文章を再度考えるのと項目をもう一度考えてみたい。最近の世情は重要だ。

G 委員             問23で参画の数を聞いているが、「必ずしも数で判断する必要がない」とか、「個人の能力によればよい」などの選択肢があればいい。

D 委員             参加をしたい人、してもいい人、出来ればしたくない人、全くしたくない人は男女問わずいると思う。その辺の意識が分かるといい。

議長                男女問わずいるはずなので、そこはあまり深堀しなくてもいいと思う。

女性の参画率がだんだん高まり、今度は質や中身の問題になってきて、参加でなく参画に入ってきていると思う。座っていても参加、意見を述べるのが参画で少し違う。この審議会は女性が半数を占めていて、黙って座っているのは何の意味もない。男女共に考えて意見を自由に交換できる空気を保ちながら、実行されることが好ましい、そういう社会を目指しましょう、積極的にやっていける環境と、そういうことが大事なんだという啓発活動だ。

自分のことだけ考えて人のことを考えたくないという人もいて、そういう理由で参画したくない人がいるが、それだと社会はどうなっていくのか。自分だけ良ければいいという社会はない。社会が良くなければ自分も良くならない。

お互いに尊重し合いながら認め合い、自分は活動しないけれども頑張ってもらいたいというの小さな参画となる。自分の殻にこもってしまい、外の世界は関係ないというのはいかがなものなのか。助け合いと人権、それを無理強いしない

で意識付けをするのがいいスタイルだと思う。それにそぐうような設問と、ヒントになる設問があればいい。アンケートは設問が重要だと聞いている。最後の語尾のちょっとした違いで回答を誘導してしまったりする。公平に回答を導くための文言があるらしい。

B 委員 問 2 3 は選択の文書を変えた方がいい。数ではない。

G 委員 「参画することについてあなたはどう思いますか」と数について聞いていないので、選択肢の 1 から 4 までは数の概念だが、必ずしも数にとらわれないものにして、一つ増やしてもらえばと思う。

H 委員 問 2 4 の「2 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する」という文言は、女性の方が能力が低いと取られかねないので、「男性女性が共に能力を伸ばし」という文言の方がいいと思う。

議長 ここで重要なのが自立ということ。勉強する人はたくさんいるが、それを何に使うのか、大いに問題がある。問 2 4 の 1 1 はこのままでいいと思う。問 2 5 もこれでいいか。

人権啓発・男女共同参画室長 国の条約などより身近な部分に絞った方がいいかと思う。

I 委員 問 2 3 は、地域活動すべて含めて女性の参画の割合が増えればいいという主旨なのか。この文言だと政策の場に女性が出るということに限定すると思う。

人権啓発・男女共同参画室長 指標の中に女性委員の割合があるので、それを高めるためにどんなことに気をつけていけばいいのかを導き出せればいい。

B 委員 全体ということではなく、その数値が低いから集中的に聞きたいのか。地域活動はここに含めないでこれをピンポイントで聞き、更に率を高めたいということなのか。そうすると、G 委員の設問の選択肢を増やすという意見が解決していないと思う。数にこだわる理由はそこにある気がする。全体的に見れば数ではないが、ここは数字を見た方がいいのかもしれない。数字だけ見るという観点であれば、このままでいいと思う。

議長 そういうことだ。G 委員がおっしゃたのは問 2 4 の方だといいいのかもしれない。次に事業所の方を説明願いたい。

(事務局から資料 3 について説明)

議長 何か意見、質問はあるか。

G 委員 問 3 の「パート・アルバイト・嘱託」は子育て世代の女性のイメージがあるが、再雇用、定年延長の方の比率が高くなってきているので、混在しないために現役世代と定年後と分けて聞くのもいいと思う。

人権啓発・男女共同参画室長 そこは一括りでよろしいか。

議長 分析に問題がなければ一括りでいいと思う。

B 委員 問 2 の 1 は「10 人」を消すのか。

事務局 消して「29 人以下」ということにしたい。

G 委員 問 1 5 「7 女性の職場における活躍のための資金的支援」は、回答する立場か

らだとどうい資金援助なのかイメージしにくいと思う。設備的なものなのかセミナー的なものなのか、両方書いてもらってもいい。

D委員 逆を言うと、女性を活用するためには資金的に苦しいから援助してほしいという主旨ではないのか。この援助はどういうものを想定しているのか。

人権啓発・男女共同参画室長 補助金的なものになると思う。

議長 回答に括弧があって書けるようにした方がいいのではないかと。市の方で、こういうニーズがあるからこういう資金提供を考えるということにつながっていけば有効だと思う。今のトイレの設置などに対してだと使えない。

人権啓発・男女共同参画室長 専用トイレや更衣室などを作る補助金になっているので、どういうところに使えばいいのか、自由記述があつたらいいかもしれない。考えさせてほしい。

D委員 事業所の回答数が少ないが、多くする方策は考えているのか。500社送って193社しか返ってきていない。

議長 これに回答して何のメリットになるのか、事業所でも同様のことが言える。

A委員 アンケートの回収率に対して、行政ではどこが悪かったのか分析するのか。

人権啓発・男女共同参画室長 そこまではしない。

A委員 他にもアンケートがあるが、回収率が50%だったらいいと行政が思っている部分があるのか。そこまでいかなかったら、分析をしようと思う。

B委員 分析して改善しないとならないと思う。事業所には封書で配られるのか。

事務局 封書とインターネットでの回答が出来るようになる。逆にそれが不評だったという話も聞いている。というのは、匿名でもネット回答だと分かってしまい知られたくないという。インターネットをどうするかというのが議論になっている。市民意識調査は統計上1000人の回答が必要で設定している。事業所調査については情報専門官もいるので、半分回収できる方策を考えていきたい。

議長 次に中学生意識調査の説明をお願いしたい。

(事務局から資料4について説明)

A委員 問8は事務局案でいいと思う。

議長 問13は、元々の文章が中学生に対して分かりにくいので、同じような内容だが表現を変えたということだ。

B委員 前回の2と3の質問の意味があまり変わらない。

議長 3の感じが性別関係なしという考え方を中学生も持ってほしいというのがある。

G委員 問3を削除したならば、問2を聞く意味があまりない。同居している家族のことを聞かないのであれば、祖父母と一緒に暮らしているかどうか聞く必要はないと思う。

事務局 平成26年度の報告書では、問8の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」とクロスさせている。おそらく、当時は祖父母と同居している方が昔からの考え方を引き継いでいるかどうかを分析する目的だったのではないと思う。

議長 問3「仕事をしているのは誰ですか」で、いろいろな家族構成の中で誰が仕事

をしていることで何が聞きたいのか。収入面なのか、同居家族の構成なのか、少し分かりにくい。これは分析に使えないので削除という提案になっている。そうだとすると、問2を祖父母だけではなくもう少し違う聞き方があると思う。

B委員 世代間の格差があるわけで、上の世代からの意識や概念がどれだけ影響があるのか知りたいということだろう。両親と子どもの家庭と大家族で育った人とは少し違う。

議長 「はい」、「いいえ」ではなくて、「1. 2. 3. 4」とあってもいいのかもしれない。

G委員 祖父母と一緒に暮らしていることをいきなり聞かれると、その状態がそんなに影響するのと思うのではないか。

B委員 シングルマザーなども多いので、家族構成は聞けないと思う。

議長 祖父母と暮らして悪い影響ばかりではない。

B委員 もちろんいい影響もある。教育面だけでなく、経済的にも祖父母がいるから親が共働きできる。

議長 問2は拡大解釈が出来るために有効に使おうということで残す。問3は削除ということでもいいか。

(全員了承)

議長 すごく幅が広くデリケートな議論なので、次回は開催時間を15分ほど伸ばしていただきたい。

人権啓発・男女共同参画室長 今日には駆け足で進んだところもあるので、あとで気づいたことなどぜひお聞かせ願いたい。次回は会場の都合もあるが6月28日に行いたい。

## 7 閉会あいさつ (副会長)